

# 熊本地域医療センターだより

院長 清住雄昭

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

平成30年(2018年)9月発行

通算160号

2018 9 月号

熊本地域医療センター理念

かかってよかった。

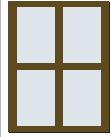
紹介してよかった。

働いてよかった。

そんな病院をめざします。

CONTENTS

- |    |               |           |
|----|---------------|-----------|
| 2面 | 退任医師/新任医師あいさつ | 救急救命士あいさつ |
| 3面 | 親栄会ボウリング大会    | 床頭台BS放送   |
| 4面 | 医療安全・臨床倫理研修会  |           |



## 患者相談窓口をリニューアルしました。

地域医療連携室長 柳 文治

以前より患者相談窓口を本館2階の地域医療連携室に開設していましたが、平成29年秋より医療メディエーターを配置するなどグレードアップ、静かな環境の本館6階に移転しましてリニューアルオープンしました。患者さんやご家族が抱える心配事や悩み事をお伺いし、経済的なこと、福祉制度のこと、社会保障制度のこと、退院後の生活のことなどのご相談をお受けしています。熊本県の「がん相談支援センター」の一つとして、治療と仕事の両立支援などの問題の解決に向けてお手伝いもさせていただいているです。

麻酔科医として術前の患者さんの診察をしていると、がんと診断されたということだけで仕事を退職されたという方々が時々あります。がんと診断されると、治療に専念したいという思いや職場に迷惑をかけたくないという思いなどから離職されるのだろうと推察します。しかしながら、現在では5年生存率も改善しており、がんを乗り越え、場

合によっては、慢性疾患として、がんサバイバーとして社会生活を続ける方も多くなっています。がんと診断されると乗り越えなければならない課題や心配事がたくさん、一気にやってくることでしょう。そんな時、かかりつけ医や紹介先の主治医とのお話は、どうしても治療に関することに比重が大きくなります。一方で、治療以外の心配事や悩み事についてはそれぞれ専門のスタッフに相談する方が分かりやすい場合もあります。治療以外の心配事や悩み事で、誰に相談して良いか分からぬ事柄についてのご相談のきっかけとなっていました。

地域医療連携室の検査事務を通じてお申込みいただいた

共同利用施設としての検査の結果は、ご紹介いただいた先

生方にレポートとして返却し

ています。その結果の中には、追加の検査や外科や内科の専門医への紹介をお勧めする内容もあると思います。検査の結果でさらなる通院が必要となり、多少なりとも不安になられた患者さんがございましたら、「熊本地域医療センターの患者相談窓口に尋ねてみたらどうでしょうか?」とご提案いただきますと、様々な角度から、場合によっては、医師、看護師ばかりでなく、社会福祉士、臨床心理士、放射線被ばく相談員、がん専門相談員など専門のスタッフも動員して、ご相談をお受けします。

共同利用施設として、リニューアルした患者相談窓口も併せてご利用いただけますようにご案内申し上げます。まずは、お電話でお問い合わせをよろしくお願い申し上げます。

窓 口  
電 話  
受付時間

本館6階 『患者相談窓口』  
096-363-3311 (代)  
平日(月曜日～金曜日) 8:30～17:00  
※土日祝日・年末年始を除く

# 退任の挨拶

乳腺・内分泌外科 竹下 卓志



残暑の候、熊本市医師会員の先生方におかれましては益々御清祥の段、心よりお慶び申し上げます。

さて、私事ですが、平成30年7月31日をもちまして熊本地域医療センターを退任いたしました。非常勤医師として3年4か月にわたり勤務させ

ていただき、その間、熊本市医師会員の先生方から多くの患者さんをご紹介いただきまして誠にありがとうございました。また、乳腺・甲状腺診療に限らず、市民公開講座における講師などさまざまな経験を積ませて頂きました。

誠に感慨深いものがありますが、その間大過なく勤務することができましたことは、ひとえに諸先生方およびスタッフの皆様の暖かいご支援ご

厚情の賜と有難く厚く御礼申し上げます。

8月より、臨床を離れて、米国へ留学し、乳癌についての研究を行う所存です。

末筆ではございますが、熊本市医師会及び熊本地域医療センターのご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

## 新任医師のご挨拶

Fujiki Yoshitaka

乳腺・内分泌外科 藤木 義敬



日頃より大変お世話になつております。前任の竹下先生の後任として、地域医療センター乳腺・内分泌外科を担当することとなりました藤木義敬と申します。現在、熊本大学乳腺・内分泌外科に

所属し、済生会、熊本医療センター等で研鑽を積んで参りました。

乳腺疾患による受診者は年々増加傾向であり、乳癌治療に関しては個別化となり多様化しております。また、甲状腺疾患も検診にて見つかる方が増加しております。この乳腺・内分泌疾患に関わるものとして、患者様に寄り添い、

最適な治療を行っていきたいと考えております。つきましては、地域医療センターを受診される患者様、関係者の皆様、ご紹介頂きます先生方のご期待に応えられるよう尽力して参ります。今後ともよろしくお願い致します。

## 気管挿管実習お世話になりました

阿蘇広域消防本部救急救命士 木山 貴文

この度、6月4日から8月14日までの72日間、熊本地域医療センター手術室にて気管挿管実習でお世話になりました阿蘇広域消防本部救急救命士の木山貴文です。

今回の実習目的は救急救命士の特定行為の1つである「心肺停止傷病者に対する気管挿管」の実施認定を受けるためのものでした。

実習では、麻酔科の高群先生と柳先生の指導の下、32名の患者様に御協力を頂き気管挿管実習をさせて頂きました。

た。挿管手技は勿論ですが、実習を通じ容態観察、呼吸管理、手技の評価や判断のスキルアップもはかることが出来ました。手技がうまくいかない症例も多々あり、それを乗り越えることで今後に生きる貴重な経験をさせて頂いたと思います。また、看護師や臨床工学技士の方々と一緒に仕事をすることで、患者様への接遇、チームワーク、医療安全への配慮を学ぶことが出来ました。実習に御協力頂いた病院関係者の方や患者様への

感謝の気持ちを忘れず、地域住民の為に今後も努力を重ね救急業務にあたっていきたいと思います。約2ヵ月半大変お世話になりました。



# 親栄会 ボウリング大会



本館5階北病棟 迫中 修平

7月20日（金）、今年度最初の親栄会イベントであるボウリング大会が、通町筋電停前にある「スポート熊本」にて行われました。今回は76名と例年を上回る多数の参加者が集まり19時30分にゲームスタートとなりました。各チーム3—5名に分かれて行いチームによっては初対面の人も居た為、初めは緊張してボールも思うように投げる事ができない方もいました。スペアやストライクを取ったチームからは歓声が上がり次第に緊張もほぐれていきました。中にはストライクを連続で取る方や、最後の1ピンが取れず悔しがる方も居て大いに盛り上がりを見せました。

2ゲームを終えた後の表彰式があり男性1位は383点、女性1位は288点と言う素晴らしい成績となりました。また男女とも3位までの方と、とび賞・ブービー賞の方々が豪華賞品を獲得され、無事ボウリング大会を終了しました。ちなみに男性1位は私だったのでまさかこんなスコアを出せるとは思っておらず、ゲーム途中から優勝できるのではないかとドキドキでした。

暑さが厳しさを増してきたこの日集まってくださった参加者の皆さん、運営のお手伝いを頂いた役員の方々に感謝申し上げます。



## BSが8波になりました

施設管理係課長 工藤 敬輔

当センターの設備は旧く、院内テレビ（床頭台）の衛星BS放送は2波、それもアナログ波に変換してやっとこさの状況でした。2011年7月、地デジ化移行にあわせて床頭台を更新した際、BS放送はNHK2波分をなんとか設定しました。しかし、あまりテレビを見ない自分のそんな思惑はうらはらに入院の患者さんからBS視聴希望が多く寄せられ、あげくには、自宅から（勝手に）持ち込んだ「新品の」テ

レビでも映らないのは何事かとお叱りを受ける始末。つぎは何とかしないと騒動が起きると、地震被害をのぞけば必ずトップ3内に留まる懸案事項だったのです。今年7月、7年ぶりの床頭台更新において、アナログ変調器に代わって安価となったデジタル変調器を用いて、めでたくBS放送8波受信（TwellV・放送大学・Dlifeは除外）が可能、さらに有線だったリモコンも純正ワイヤレス仕様となりま

した。一般的に見れば至極当たり前、特筆に値しませんが私自身にとっては、スラコ号を遠隔操作で誘導すべく配管内を伝って通信施設へ赴いたビショップの所業、そのものです（映画Alien2）。

コインランドリ更新を11月に予定しています。病院アメニティ向上の一助となるよう、より一層努めてまいります。

# 倫理とは何か ～倫理的課題に気付き倫理学的に考える～ 平成30年度第1回医療安全・臨床倫理研修会（7月25日開催）



講師の藤井可先生は行政医師で倫理学研究者。診療業務の傍ら自然科学系の立場から研究倫理や臨床倫理に携られる先生は多くいらっしゃいますが人文社会系で倫理学領域の学位を取得され倫理学に精通された先生は稀有な存在です。「倫理とはなにか～倫理的課題に気付き倫理学的に考える～」という大きな題目でお願い致しましたので専門家寄りの難解な研究報告で多くの参加者が寝てしま

医療安全推進部：セーフティーマネージャー 清水 潔

うのではないかと若干憂慮しておりました。しかし先生の理路整然とした明解な解説、そして研修後アンケートに見る参加者の前向きな声からそれは杞憂に終わりました。研修からの学びとこれからの活用へ意見を頂いた中から、特に印象に残ったものを紹介いたします。「患者中心の医療を行っていくこと」「道徳的な徳→徳とは中庸のみ」「患者の権利で自己決定をするためにいろんな情報提供していく」「医療の押しつけではなく、患者さんの望みなどを第一に考えて看護をしていく」「皆に同じ対応が相

応しいとは限らない。広い視野をもって個々にあった対応をする」「倫理と倫理学は違う」「本当に必要な治療とは何か、病気を治すことのみに捉われず考えていきたい」。インフォームド・コンセントやACP (Advance Care Planning) などはまさに医療倫理の四原則に沿った話し合いのプロセスを経る重要性からその神髄が問われてきている代表だと思います。先生による「倫理とは人間がより善く生きるために規範（ルール）」の表現に象徴されているかのように感じました。



## 次回の【熊本地域医療センター勉強会】のお知らせ

今月の勉強会はお休みです

院長:清住 雄昭発行 責任者:地域医療連携室長 柳文治  
熊本地域医療センター 〒860-0811 熊本市中央区本荘5-16-10  
TEL(代表)096-363-3311/FAX 096-362-0222  
TEL(直通)096-366-1323/FAX 096-363-3416  
E-mail:renkei@krmc.or.jp  
ホームページアドレス:<http://krmc.or.jp>



編集後記

Y@日本では、大雨、大地震と自然が猛威を振るうなか、全米オープンテニスが開催されていました。優勝した大坂なおみ選手が、「ウィリアムズ選手と試合をすることが夢だった」と敗者にお礼を述べ、ブーリングしている観客にも、「観に来てくれてありがとうございます」とお礼を述べました。プレーだけでなくコメントも素晴らしい勇気をいただきました。  
S@今年の秋は、読書の秋?食欲の秋?さまざまな秋を楽しみたいです(⑉⑉)